

2025 年度 国際奨学生成果発表会（報告）

大学女性協会の国際奨学金の支援を受けて 2025 年秋に来日、それぞれ京都大学と広島修道大学で研究に従事したアルゼンチンとメキシコからの奨学生による、研究成果と日本滞在の報告会を2回に分けて催しました。

第1回

2026年1月22日

東京都文京区の今井館聖書講堂にて
対面とオンライン同時開催

奨学生 メラニー・アイレン・ペレス＝クーパーさん（アルゼンチン）

留学先 京都大学大学院医学研究科 荒川芳輝研究室（脳神経外科）

研究テーマ 膠芽腫治療の可能性として、治療用遺伝子を罹患細胞に届け、細胞自身に治療力を生み出させる手法の研究

メラニーさんは、治療遺伝子を搭載したバクテリアを罹患細胞に到達させ、そこで増殖して罹患細胞の生存率を低下させたことを、マウスを用いた実験で確認できたと、報告しました。



発表後、Zoom・対面参加者とともにメラニーさんを囲んで

第2回

2026年3月5日

東京都文京区の今井館聖書講堂にて
対面とオンライン同時開催

奨学生 エイラ・ジョルジナ・バルデス＝ボカネグラさん（メキシコ）

留学先 広島修道大学人文学部河口和也研究室

研究テーマ 自動車産業の競争力とパフォーマンス向上戦略の観点から見た女性労働者のワークライフバランスの研究



ワークライフバランスの6側面について語るエイラさん

エイラさんは、広島某自動車企業で働く女性への聞き取り調査を通じて、「報酬・生活時間・家庭内人間関係・心身の健康・家事分担・余暇時間」という6側面から、ワークライフバランスを分析・測量して現状を評価、今後の課題を明らかにしました。

両名とも短期間ではありましたが、研究成果を充実した多数のスライドにまとめて披露してくれました。引き続きそれぞれが母国の女子や女性の高等教育制度と、現実の社会で女性を取り巻いている環境について語ってくれました。そこからは日本と共通の課題、またアルゼンチンとメキシコそれぞれが個別に抱える課題が浮かび上がり、私たちの目を大きく広げてくれました。